

「外国にルーツをもつ親子のための
プレスクール開催のための連携づくり」

kokohanaやさしい日本語でつながる八王子の会/宮武茜

八王子市における現状・問題把握

- ・外国にルーツをもつ親子が、就学前に学校について詳しく知る機会がない
- ・外国にルーツをもつ親子が、地域や学校とのつながりを持つのが難しい
- ・プレスクールの必要性について認知されていない

問題解決の課題設定

就学前の親子を対象に、小学校について知ることができる機会（プレスクール）をつくる

↓ 変更

プレスクール開催へ向けた連携づくり

	行ったこと・取り組み	取り組みを通して考えたこと
8月	愛知県安城市の取り組みを参考に、プレスクールについて調べる	マニュアルを見ると、開催回数も多く、市の協力も大きく、手を出して良い分野なのか不安になった。
9月	・八王子市立柏木小学校運営協議会（学運協）に、プレスクール開催の意向を伝える。 ・プレスクールの必要性、具体的な内容、開催時期、参考資料などをまとめたプリントを作成。	口頭の設定では伝わらない、反応が薄いので、詳しく伝える工夫が必要だと感じた。
10月	・学運協からのアドバイスを受けて、市の就学時健診の日程・私立保育園協会について確認。すでに、就学時健診が始まった地域もあるため、チラシ配布時期を変更することに。 ・「あんじょうまざりん」と連絡をとり、写真の提供を受ける。 ・柏木小学校を会場に設定して、開催希望日を伝える。 ・学務課に、プレスクール開催の意向を伝える。 ・実施団体であるkokohanaのスタッフミーティングを通し、対象地域を土地勘のある地域に絞り、開催回数や定員を無理のない設定にすること。専門ではない部分を、市に相談して協力していただけるか依頼することにした。	・開催校の校長、地域の園長に企画案を見せると、いろいろなアドバイスをいただくことができた。 - 地域の学校関係者に見せると、反応が良く、開催が決まったら知らせることに。 ・資料があると、周りの人も関係者に説明しやすいことに気づく。イメージしやすい資料には、写真つきが有効だと感じる。 ・10/7秋期研修で「コーディネーターとしての役割や、目標からの逆算という視点」が足りないことに気づいた。 - 自分達だけで取り組むのではなく、いろんな関係機関と連絡を取りながら、進めていくことが大切だと感じ、積極的にこの取り組みを相談しに行こうと感じた。

“理想のプレスクールの姿”について考えた ①その必要性について、学校関係者が認識していること ②地域の人、外国人住民、行政に認知され、利用してもらい、困る親子と学校関係者が減ること ③学校関係者だけでなく、地域の外国人住民と連携して開催されること		
11月	就学時支援員として現場に入り、学校の課題や、外国籍児童生徒にとってのニーズを見つける。	就学時支援員が外国籍児童生徒の心の拠り所になり得ることがわかったが、活動している支援員があまりにも少ない。受け入れ学校が十分な対応ができず試行錯誤している様子や、児童生徒の不安や戸惑いを、周りに知らせていかなければと思った。
12月	・学務課の方と、市の小中学生の保護者向けの日本語支援案内について情報を共有した。 ・市民活動支援センターに相談。 ・地域推進会議に参加。市内で連携できそうな団体を探す。	・学務課から、多言語の日本語支援案内資料を提供していただき、嬉しく感じた。 ・多言語読み聞かせ、アート遊び、里山、お手玉サークル、中央大学、拓殖大学の学生、地域日本語教室や外国人ママ達との連携も可能だとわかり、自分達で全てやろうとするのではなく、コーディネートしていく希望、楽しみが増えた。
1月	・外国籍等児童生徒就学時支援連絡協議会に参加。 <u>小中学校の校長が感じている現場の課題、巡回指導員が抱える課題、支援員の悩みなどを共有した。</u> ・別の新規プロジェクトと準備期間が重なり、準備が進まず、丁寧に進めたいことから、プレスクール開催を見送る。 ・プレススクールの会場予約をキャンセル。	・別のプロジェクトを通し、新しいことを始める時、また、連携先が多くなればなる程、準備に時間がかかることを実感する。 ・会議に参加し、外国人保護者とのコミュニケーション、日本語支援の難しさに悩む学校が多く、改めてプレススクールの必要性を感じた。
2月	・来年度、社会福祉協議会の助成金をいただけるように、報告書や助成金申請手続き書類を準備する。 ・外国籍等児童生徒就学時支援者の情報交換会に参加予定。	
3月以降	・安城市「あんじょうまざりん」など、プレススクール・サポーター研修の様子を見学可能な場所を探す。 ・外国ルーツを持つ親子向けの交流会@幼稚園・保育園で開催できないか、近隣の幼保育園長などに相談する。	

実践を経て得た気づき

- ・小さく始める
- ・新しいプロジェクトを同時に準備するのは難しい
- ・自分達で全てをやろうとしなくてもよい。他の、得意分野を持つ方達と協力をすればよい
- ・連携が増えてくると、共通認識をもつためのプロセスが必要
- ・保育園や幼稚園、外国人コミュニティとの連携に課題がある
- ・プレスクール実施に向けた、サポーター研修に課題がある
- ・学校、支援側、児童生徒が困っている姿から、就学前の支援の必要性を改めて認識できた

今後に向けて

- ・ **保育園、幼稚園、外国人コミュニティとの連携づくり**→外国ルーツを持つ親子向けの交流会@幼稚園・保育園で開催できないか。近隣の園長たちに相談する。
- ・ **プレスクールのサポーター体制**を整える→安城市のプレスクールと研修の様子を見学できないか打診する
- ・ **外国人サポーター体制**を整える→外国人保護者とのやりとりを重ねる
- ・ **就学时支援員、日本語巡回指導員、日本語学級などと連携**できないか→会議などに参加し、意見交換を続ける